

南あわじ市 平成 20 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 事業 委託 補助用 )

## I 基本事項

整理番号 467

事業名	予防接種事業		予算科目	会計 款 項 目	一般会計・1 衛生費・4款 保健衛生費・1項 予防費・2目
担当部課名	健康福祉部	健康課			
電話	0799 - 44 -3004				
事業分類	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	予防接種法		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり__元気あふれ__住んで快適なまちづくり__			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命__〔健康〕			
	施策目標	健康増進や予防などに関する意識を高め、信頼性の高い医療・ 救急医療が受けられる仕組みを整える			
該当する事業について「 」を選択	施策的事業	業務委託	負担金補助		

## II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 予防接種法において定期接種と定められている年齢の市民(生後直後から生後90ヶ月に至るまでの間にある者、11歳以上13歳未満の者、9歳以上13歳未満の者)及び5年間の経過措置として中学1年生と高校3年生の者 対象人数(人) 11,250
	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	予防接種を受けることによって感染症を予防し、重症化を防ぐことが出来る。予防接種による健康被害者の救済。
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 予防接種法に基づき、定期予防接種(BCG、三種混合、麻しん風しん、日本脳炎)を乳幼児・学童を対象に、個別及び集団接種で実施している。 生後6ヶ月未満(BCG)、生後90ヶ月未満(三種混合1回目・2回目・3回目・追加・麻しん風しん、日本脳炎1回目・2回目・追加・)、小学校4年生(日本脳炎2期)、中学3年生(日本脳炎3期)、小学6年生(三種混合2期)、中学1年生(麻しん風しん3期)高校3年生(麻しん風しん4期)
	背景	感染症をなくすには、かなりの多数の人にワクチンを受けてもらわなければならないし、感染症にない状態を続けるためには、予防接種により住民の免疫レベルを一定以上に保っておかなければならない。このために予防接種に関する知識の普及、住民の意識の向上などが望まれるが、これだけでは目標に達することは難しいので、行政や公的機関による勧奨や、法による義務付け、予防接種を行うシステムの整備などが求められる。
	事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ( ) <input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 予防接種法に基づいた事業であり、新市においても継続して実施する。 乳幼児期の定期予防接種のうち、BCG・三種混合(ジフテリア・破傷風・百日ぜき)・麻しん風しん・日本脳炎・二種混合は委託契約している医療機関で個別接種。ポリオは集団接種であり、緑保健福祉センター1回、西淡保健センター1回、三原保健センター2回、南淡福祉保健センター2回計6回実施。学童の予防接種については、5年間の経過措置で各中学校で集団接種。学校で接種出来なかった児童は委託契約している医療機関で個別接種。	

## Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	予防接種者数				指標単位 人
	指標説明 (指標算出方法等)	感染症に対する個別予防接種、社会全体の感染症の流行を防止することが必要				
			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	目標値		9,235	9,469	定期予防接種対象者数	定期予防接種対象者数
	実績値		4,460	4,075		
	達成度 (%)		48.3	43.0	-	-
目標値設定の考え方	感染症の流行を防止していくためには、社会全体として一定の接種率を確保することが重要。					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	予防接種率				指標単位 パーセント
	指標説明 (指標算出方法等)	予防接種者÷予防接種対象者 対象者数は乳幼児BCG(生後6ヶ月未満)その他の乳幼児予防接種は(生後3ヶ月から90ヶ月未満)学童日本脳炎2期(小学校4年生)、3期(中学3年生)三種混合2期(小学6年生)				
			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	目標値		100	100	90	90
	実績値		48	43		
	達成度 (%)		48.0	43.0	-	-
目標値設定の考え方	予防接種により感染症の流行を防止していくためには、社会全体として一定の接種率を確保することが必要。					
資源配分 (インプット)			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	直接事業費 (千円)		29,759	29,457	37,641	37,634
	看護師等報償費		246	232	311	310
	医療機関等委託料		28,632	28,522	33,198	33,197
	医薬材料費等		425	429	3,635	3,634
	医療用等消耗品費		190	85	27	26
	印刷製本費		250	176	449	448
	車借上料・旅費等		16	13	21	19
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]		29,759	29,457	37,641	37,634
	人件費(正規職員)[B] (千円)		0	50,292	17,398	11,799
	平均人件費(1日当り)		30.7	29.9	30.1	30.1
事業量1(事業に要した日数)			29	17	14	
事業量2(事業に要した人数)			58	34	28	
年間経費([A]+[B])		29,759	79,749	55,039	49,433	
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)		2.6	7.1	4.9	4.4	
受益者人数(4,075)1人当り経費(千円)		7.3	19.6	13.5	12.1	
経費に関する補足説明	日本脳炎は一時中止。保護者が特に希望する場合は、医療機関で個別接種。					

## IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	48.3	43.0	-	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 乳幼児の定期予防接種は、ポリオ以外は個別接種。また今年より、5年間の経過措置で中学1年生の集団予防接種及び高校3年生の個別接種が追加されている。					(自己評価) 5点評価
						3
有効性	成果指標目標達成度	%	48.0	43.0	-	-
	成果向上率	%	-	10.4	-	-
	(事業実施による目的に対する有効性分析、問題点・課題などを記入。) 予防接種自体の効果、必要性、公共性とも高いので、事業を継続していく必要がある。					(自己評価) 5点評価
						4
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	6.7	19.6	-	-
	効率性増減率	%	-	193.3	-	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 委託料については南あわじ市医師会と話し合い決定している。					(自己評価) 5点評価
						4
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低		
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 予防接種を実施することにより、感染症に対する個別予防、社会全体の感染症の防止が出来る。必要性はかなり高い。					(自己評価) 5点評価
						5
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 予防接種は、感染症に対する個別予防、社会全体の感染症の予防が出来、必要性が高い。地域全体として一定の接種率を確保することが重要である。今後も引き続き、各乳幼児健診・育児相談・市広報・ホームページ等で未接種者に対し、フォローしていきたい。					<div data-bbox="821 1541 1388 2116"> <p>評価グラフ</p> </div>

## V Action&amp;Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成21年度にできる改善・改革	平成22年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>平成20年度より5年間の経過措置で中学1年生(集団)と高校3年生(個別)の麻しん風しん予防接種が追加された。麻しん風しん混合予防接種第3期(集団)では、接種率が高いので、現状維持で実施していく。</p> <p>適切な時期に予防接種が行われるよう学校と連帯を強化したり、広報、勧奨ハガキなどで周知していく。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)	<p>個別接種の場合、接種率が低くなる傾向にあるので、二種混合(小学6年対象)と麻しん風しん混合 期の未接種者について、学校の養護教諭と連携したり接種勧奨の通知により、また、乳幼児対象の予防接種の場合は、乳幼児健診時などに接種の勧奨をして接種率向上に努める。</p>	同左
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	適切な時期に予防接種が行われ、且つ接種率向上につながる。	同左
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	<p><b>仮に</b>事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>感染の早期発見、早期治療及び二次感染の防止を推進し蔓延防止を図る。中止すると社会的影響が大きい。平成20年度より、二種混合予防接種、麻しん風しん混合予防接種が個別接種になると、どうしても接種率が落ちる。接種率を上げるために教育委員会及び教職員などと、連絡をとり情報交換などをして、勧奨ハガキなどで接種を勧める。</p>	